恵那市議会委員会行政視察報告書

１．委 員 会 名　　総務文教委員会

２．視察年月日　　令和４年 10 月 11 日から令和４年 10 月 13 日まで３日間

３．視察委員名　　中嶋元則、伊藤勝彦、秋山佳寛、平林多津子、柘植孝彦、千藤安雄

４．随　行　者　　議会事務局書記　　山口美紀

５．視察地及び視察事項の概要

月　日	視　察　先	視察事項の概要
10 月 11 日	１．三重県いなべ市役所 「地方創生支援事業費補助金（自治体ＳＤＧｓモデル）を活用した事業について」 ２．奈良県奈良市　薬師寺 「恵奈の里次米奉納先の視察について」	別紙のとおり
10 月 12 日	３．京都府京都市　松下資料館 「先人顕彰施設の概要について」 ４．京都府京都市　市立堀川高校 「スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）の取り組みについて」	
10 月 13 日	５．三重県鈴鹿市　史跡伊勢国分寺跡歴史公園 「国史跡（重要な寺院跡）に指定された文化財の保存・活用について」	

上記のとおり報告します。

令和４年 11 月 28 日

恵那市議会総務文教委員会
委員長　　中嶋　元則

恵那市議会議長　　鵜飼　伸幸　様

１．【地方創生支援事業費補助金（自治体ＳＤＧｓモデル）を活用した事業について】

三重県いなべ市役所

（１） 視察の目的

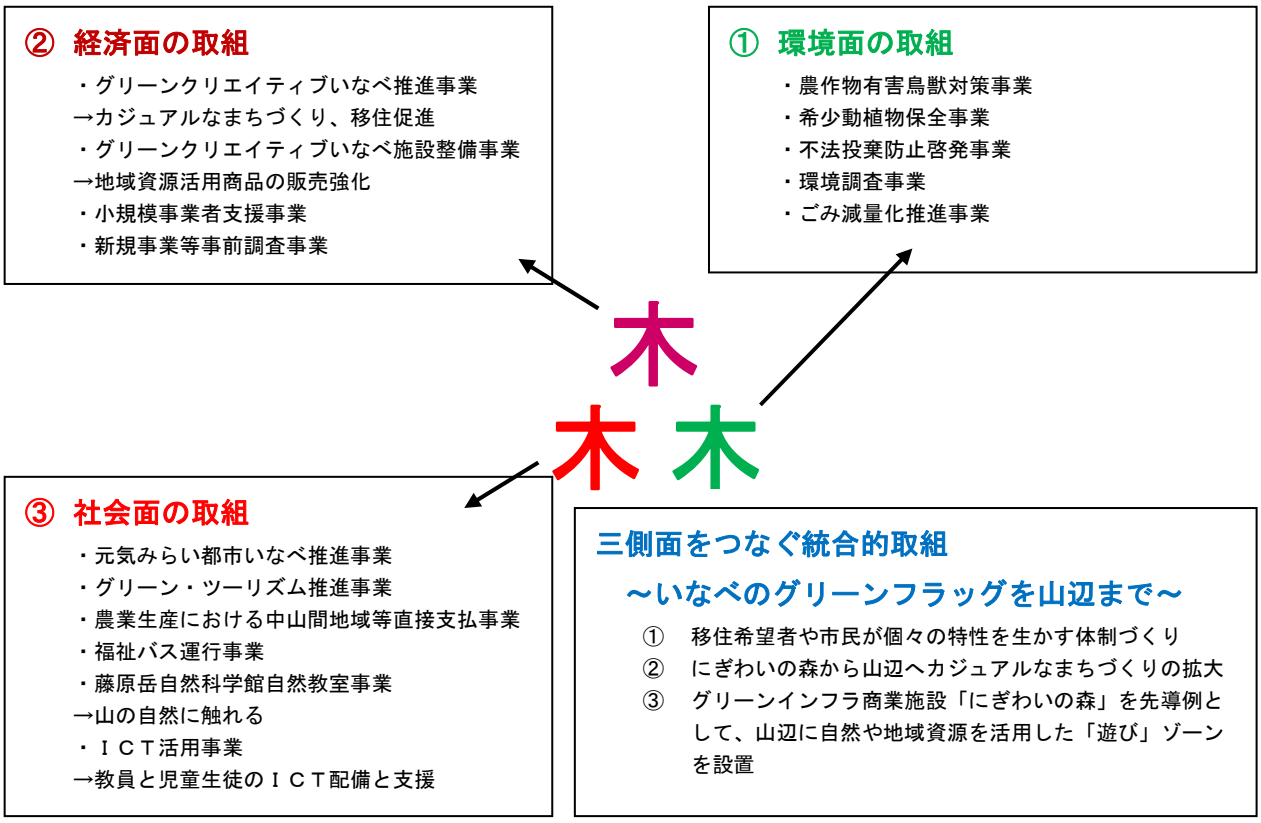
いなべ市は、令和２年に「ＳＤＧｓ未来都市」及び「自治体ＳＤＧｓモデル事業」に選定された都市で、森林放棄地を活用したグリーンインフラ施設「にぎわいの森」を拠点としたまちづくりを官民連携で実施している。活動を通してカジュアルなまちづくりに共鳴する市民や移住希望者を呼び込み、鈴鹿山脈の山辺までの市内広域観光回遊を実現するなどの取り組みを行っており、その概要及び成果について視察した。

（２） 調査事項・概要

①自治体ＳＤＧｓモデル事業の概要

令和元年の市役所新庁舎建設とともに、未活用の森林や自然の機能をうまく利用した商業・観光交流・まちづくり拠点施設「にぎわいの森」を整備し、格式ばらずＳＤＧｓ事業に気軽に来場、参加したくなる機運を醸成している。いなべ市における鈴鹿山脈の麓の広大な森林放棄地を整備して、カジュアルで若者に支持を得るスポットとしてまちづくりを実施している。市民や移住希望者が自分の特性を活かして、牧場やアクティビティ、飲食店など地域資源を活用した店舗を群生させ、山辺をレジャーゾーンとして新たに価値を持たせる。

「山辺」とは、鎌倉・湘南といえば「海辺」とイメージするように、気候的に鈴鹿山脈の影響を受け、視覚的に山の存在を強く感じられる山の麓を「山辺」と表現したものである。



②主な取組

○いなべＳＤＧｓ推進計画策定

ＳＤＧｓチェックシートを活用しＳＤＧｓの理解と実践に向け取組を行った事業に認定証を交付。※１９５事業所／９８１事業所（普及率１９．９％）

○いなべＳＤＧｓ推進パートナー制度

市と連携してＳＤＧｓの活動に取り組んでいる、ＳＤＧｓに力を入れている企業や団体を「ＳＤＧｓ推進パートナー」として認定する制度。※市内外の２４事業所（R4.9月末）

○モバイル・ヒュッテ・プロジェクト

ダイハツ工業とタッグを組み、軽トラックを利用した移動型屋台ユニットを開発。山辺をオシャレなマルシェ会場へと大変身させ、山辺ゾーンの持続可能な繁栄を実現。

○山辺アクティビティプロジェクト

普段使われていない山辺の公園・林道を活用し、市内の未利用施設や森林の魅力を感じてもらうイベントを開催。吉本興業のＳＤＧｓ芸人を招き楽しくＳＤＧｓを学んだ。

○山辺にカートラベル用の敷地を整備

低コストで宿泊機能を確保することができるカートラベル整備は、市内滞在時間の増加や、地域の消費拡大につながる。

○ＵＤフォントの導入

弱視や高齢者にも見やすい、読みやすいフォントを提供。市のホームページ・広報誌・通知書・庁舎内書類・プレゼン資料・学校発行のお便りなど。

○多言語対応ユニバーサル情報配信ツール「ＭＣ　Ｃａｔａｌｏｇ＋」の導入

より多くの人に公平な情報提供ができる多言語化、読み上げ機能、動画や音声など、豊富な情報配信に対応。

○いなべブランド冊子によるシティプロモーション

全ての分野の行政サービスにおいて、市として誇れる事業、先駆的な事業及び全国等で表彰をうけたもの等から審査し、客観的な視点において基準を満たした行政サービスを紹介。

○企業とのパートナーシップによるＳＤＧｓ推進の取組

市内の子どもを対象に、市内企業を中心にＳＤＧｓを感じることができるワークショップを展開。※令和４年９月末現在の受講者は１０企業４８１人（うち子ども２５０人）

○学校におけるＳＤＧｓ推進の取組

子どもと大人のＳＤＧｓ学習ゲーム「ゲット・ザ・ポイント」を活用しＳＤＧｓを推進。
※令和４年９月末現在の受講者　２，７０５人

（３）　まとめ

「山辺」をキーワードとして、自然を活かした魅力あるまちを推進し、令和２年に東海地方で初のＳＤＧｓモデル事業選定都市となり、市役所に隣接したまちづくり拠点施設「にぎわいの森」では、地元食材を扱う店舗が集い、イベントやワークショップには地域住民だけでなく市外観光客も多く来場している。格式ばらずＳＤＧｓ事業に気軽に参加・来場したくなる機運が醸成されていると実感した。

２．【恵奈の里次米奉納先について】

奈良県奈良市　薬師寺

（１）　視察の目的

奈良県明日香村で出土した日本最古とされる荷札代わりの木簡には「天武６（６７７）年１２月に三野（みの）国恵奈の里から朝廷に次米（献上米）が贈られた」との内容が記され、恵那市では古代寺院「正家廃寺」跡（国指定史跡）に近い２３０平方メートルに稲を植え、毎年春に「お田植え祭」、秋に「抜き穂祭」として「恵奈（えな）の里　次米（すきまい）みのりまつり」を実施し、歴史にちなんで地域を盛り上げている。

例年、奈良市の薬師寺が一山を上げて、朱雀元（６８６）年の９月９日（旧暦）に崩御した天武天皇を供養する法要「天武忌」を天武・持統天皇陵の前庭で行い、この日に併せて恵奈の次米を天武天皇陵と薬師寺に献納している。恵奈の次米を毎年奉納している薬師寺を視察した。

（２）　調査事項・概要

境内を案内いただいた薬師寺の副住職からは、恵那から次米を献納していることに対して感謝の言葉をいただいた。次米献納の際には、恵那農業高校の生徒らが「抜き穂踊り」を披露したことがあり、その舞台となった大講堂を見学することができた。この「抜き穂踊り」は、「第19回全国農業担い手サミット in ぎふ」でも披露されており、当時の皇太子ご夫妻にご覧いただいたとのことであった。薬師寺での次米献納の様子など、当時撮影した映像を見せていただいたことで、恵那市と薬師寺との縁をより深く感じ入ることができた。

薬師寺大講堂を視察する委員ら

恵那農業高校生徒らが抜き穂踊りを披露した時の様子

（３）　まとめ

出土した木簡から、恵那はいにしえより豊かな水と土に恵まれた米作りが盛んな土地であることが伺え、また当時の都から強い影響を受けて建築された「正家廃寺」の存在など、東国支配の要所として朝廷がこの地を重んじていたことが伺える。「恵奈の里次米みのりまつり」では、史実に基づいて田植えから献納までを再現し、「みのじのみのり祭り」では、次米の振る舞いなどみなさまと収穫の喜びを分かち合っている。こうした地域の歴史・文化の再発見や伝承をお祭りを通して行っていることや、薬師寺・明日香村とのつながりについて、改めて認識することができた。

３．【先人顕彰施設の概要について】

京都府京都市　松下資料館

（１）　視察の目的

「松下資料館」は、パナソニックグループ創業者でＰＨＰ研究所の創設者でもある松下幸之助の生誕 100 年を記念して平成６年５月に開館、一般公開されている施設である。松下幸之助が理想とした人間としての生き方、人生の考え方、企業経営のあり方、そして国家社会・世界の展望にいたる幅広い内容を、著作や映像、グラフィックパネル等を用いて展示されている。先人顕彰のための施設において、どのようなものが展示されているか等について視察した。

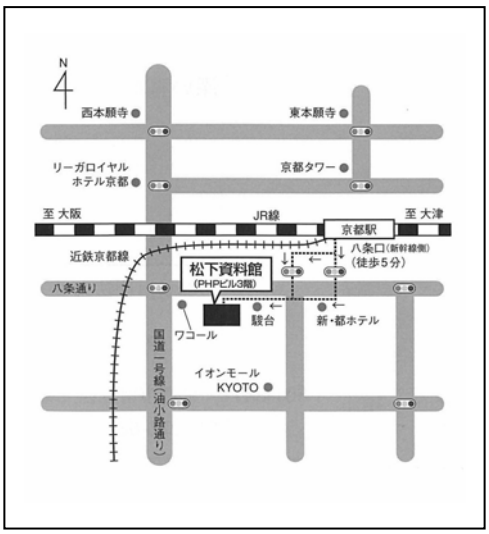
（２）　調査事項・概要

①施設の概要

開館から 19 年は京都府木津川市に資料館を構えていたが、平成 25 年に京都駅から徒歩圏内のＰＨＰビル３階へ移転した。アクセスの良さから来館者が増加し、国内のみならず、中国など海外からの来館者もある。

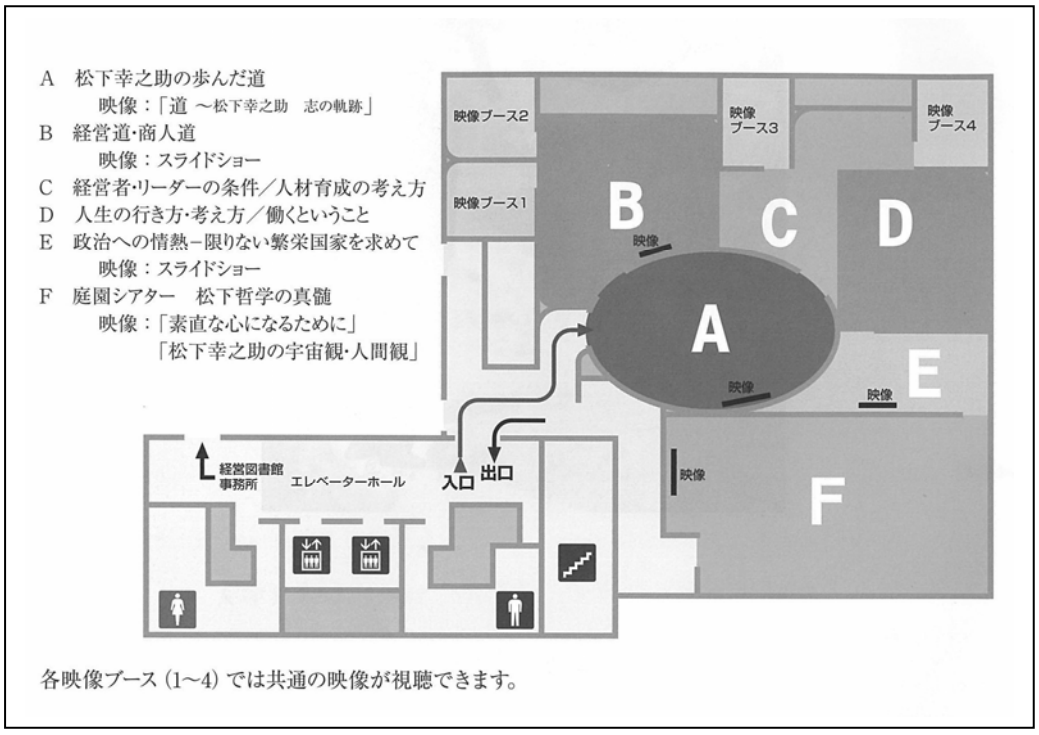
松下資料館は松下幸之助と出会い対話するスポットとして、松下幸之助の肉声と映像が視聴できるほか、豊富な資料が、展示室、経営図書館ともにそろっている。

また、展示室のガイドブックは、日本語、英語、中国語、韓国語の４カ国語が用意されている。



②展示室の詳細

松下幸之助の思想・哲学の一端を、生の音声と実際に語られた言葉を生かしながらビジュアルに展示、紹介している。展示室は無料で見学することができる。



③講話の聴講

５名以上のグループ・団体に限り、「松下幸之助の行き方・考え方」に関する講話を聴講することができる。講話の聴講と展示室の見学を組み合わせた場合の標準時間は２時間ほどで、講話料は次のとおり。

【講話料】
・１名 1,000 円
・30～50 名の場合は、１回につき 30,000 円
・50 名以上の１つのグループ・団体が複数回に分かれて講話を実施する場合は、１回の講話につき 30,000 円

遠藤館長から映像を交えた講話を聴講する委員ら

講師は、館長の遠藤紀夫さんが勤められ、松下幸之助とともに働いた際のエピソードなどを交えながら、その歩んだ道や重ねてきた思索、考え方を紹介していただいた。人づくりに力を入れ、人はそれぞれに与えられた天分に気づき、それを磨き、発揮し続けることで、自分を活かすこと。天分は一人一人違うからいいのであって、お互いに認め合い、活かしあうことが発展・成功の基本であるとの考えを教えていただいた。テレビのリモコンを例にあげ、みんな同じ考えならば発展はないが、違った意見が集まってこそよりよいリモコンができることなどを紹介していただいた。

また、松下幸之助は「素直な心」でいることを大切にし、毎晩今日の一日を振り返りながら、10 カ条（私心にとらわれない、耳を傾ける、寛容、実相が見える、道理を知る、すべてに学ぶ心、平常心、融通無碍（ゆうずうむげ）、平常心、価値を知る、広い愛の心）を自問自答していたことを紹介され、毎日自分と向き合う大切さを学ぶことができた。

（３） まとめ

当市にも佐藤一斎や下田歌子などの偉大な先人があり、その生き方・考え方を後世に伝えるための施設をつくってはどうかとの話がある。松下資料館では移転前は展示中心であったが、移転後は映像や音声などが工夫され、とても魅力ある展示となっている。講話に使用される冊子は松下幸之助の教えがわかりやすくまとめられており、施設を訪れた後でも繰り返し読み返すことができる。松下資料館を参考とすることで、これからを生きる子どもたちや若者たちが、多く訪れるためにはどのような施設がよいか、知名度アップの方法や集客方法、運営方法など、当市の先人顕彰施設の設置についてはしっかり検討する必要があると実感した。

人生の行き方・考え方パネル展示の前にて

４．【スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）の取り組みについて】

京都府京都市　市立堀川高校

（１）　視察の目的

スーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）研究開発の成果である探求活動指導法・問題解決型授業の小中学校への普及を実践している。高校生が中学生に勉強を教えるなどの取り組み、中高の連携による学力向上の試みについて、その概要及び成果について視察する。

（２）　調査事項・概要

①堀川高校が目指すもの

堀川高校では、校訓「立志・勉励・自主・友愛」に基づいて「自立する１８歳」の育成を図ることを最高目標とし、そのために「豊かな学校」の構築を目指している。「豊かな学校」とは、言葉を大切にする学校、言葉を通い合わせることのできる学校、考えるあたまと感じるこころを育てる学校、さまざまな経験を重ねることのできる学校を意味する。そこで学ぶことによって、想像力と創造力に富み、判断力と行動力を備えた「自立する１８歳」を育成する。

校訓

立志　／　自らの可能性を信じ、開拓し、目標を高く掲げ、その実現に向かって取り組む。

勉励　／　謙虚であることと懸命に努力を重ねることの大切さを知り、困難に立ち向かう姿勢を培う。

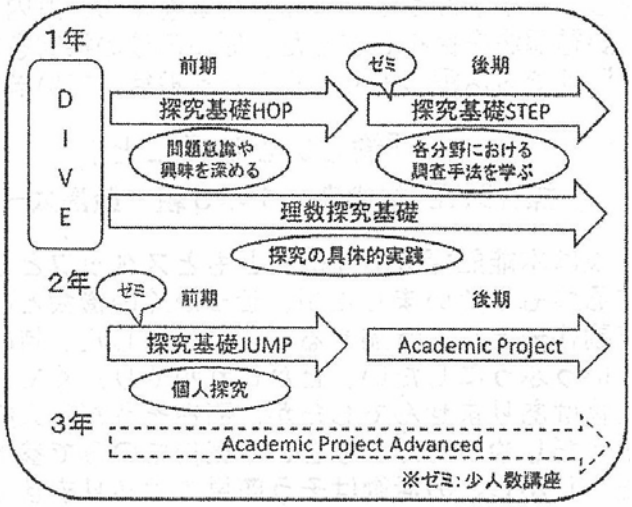
自主　／　自らを見つめ、じっくり考え、適切な判断力と健全な批判力を養い、責任をもって行動する。

友愛　／　自分のまわりの人やものを大切にするとともに、想像力を高め、他者を思いやる。

②「探究基礎」の授業について

堀川高校は、先進的な理数系教育の研究開発を進めるスーパーサイエンスハイスクール（ＳＳＨ）に指定され、この事業の主軸の１つに「探究基礎」がある。

「探究」とは、答えが用意されていない「問い」に対し、正しいと思える「答え」を導き出す営みを指す。その「答え」を導き出すためには問題を発見・探索し吟味・検討する力、正しい情報を得る力、論理的に考える力、自分の考えを伝える力、他者の考えを受け止める力、ふりかえりの力など、さまざまな力が必要である。堀川高校では、それらの力を育み、探究活動に必要な姿勢・知識・技術を身に付けるための授業「探究基礎」を設けている。探究基礎の授業は入学後すぐの探究ＤＩＶＥ、１年前期のＨＯＰ、１年後期のＳＴＥＰ、２年前期のＪＵＭＰを経て、２年後期と３年生の　Ａｃａｄｅｍｉｃ　Ｐｒｏｊｅｃｔ（３年次は自由履修）へと、３年間にわたって行われる。



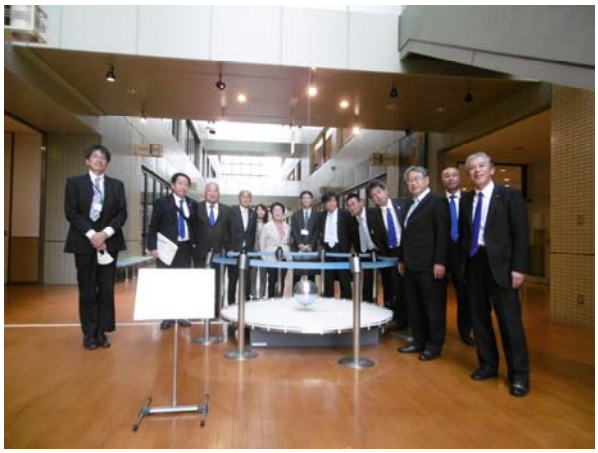
③「探究道場」について

実際に探究学習に取り組む高校生と、探究活動に興味を持つ中学生との活動・交流の場を構築することを目的として、中学生を対象とした探究的・発展的な特別講義・実習を高校生が主体となって取り組んでいる。

探究道場では１、２年生がスタッフを務め、手と頭を動かし、テーマの立案から準備・運営に至るまですべて生徒自身で行っている。「探究」の楽しさを中学生にも知ってもらおうと、生徒たちが中学生の指導役となり、課題を設定、希望して参加した中学生に「探究」を体験してもらうことで、生徒たちの成長の場ともなる。

このほか、入学前の中学生に「探究」を知ってもらうことで、例えば、進学校だからということで堀川高校へ入学し、「探究」を学ぶことになったときに「探究には興味がないのに、どうしよう。」などといったミスマッチングを避けることができる。

（３） まとめ



校舎ロビー「フーコーの振り子」前にて

５階建ての校舎ロビーは吹き抜けになっており、地球の自転を観測するために用いられる「フーコーの振り子」が設置されていた。視察では、スーパーサイエンスハイスクール指定の当初から携わっておられる飯澤教頭先生から振り子の説明をうけた後、熱意あふれる講義をいただいた。

新しい学習指導要領では「探究」の力を重要視している。これは、これからの答えのない社会で生きていくためには必要不可欠な力であり、学校現場ではその力を付けていくことが責務となっている。けれども、探究力を付けることはきわめて困難なことであり、容易に実現することはできない。それは学校のシステムをはじめ何より教員の指導力が大きく関係するからである。

堀川高校は、探究力の必要性が叫ばれる以前から、学校として力を入れて指導を進めている学校であり、現在、多くの学校が参考にすべき高校である。本市にある恵那高校も同様に探究に力を入れており、両校とも他校に比べて探究が及ぼした効果による進学実績が顕著にあらわれている。堀川高校において、探究活動を推進し、その効果が確実に出ているのは、何より先生方の熱心さとブランド力によるものだと思われる。探究活動を柱にした学校経営はきわめて学ぶことの多かった視察であった。

「探究道場」は高校生が中学生に探究活動の面白さを体感させる取組であるが、これは、探究的な学習がほとんど行われていない中学生には必要なことであると思う。本市においては、探究活動を行っている恵那高校がある。恵那高校の生徒が市内の中学生を対象にした探究的な活動を体験させることは決して不可能なことではないと思われる。恵那高校にとっても市内中学校にとっても利点があるものと思われる。

５．【国史跡（重要な寺院跡）に指定された文化財の保存・活用について】

三重県鈴鹿市　史跡伊勢国分寺跡歴史公園及び鈴鹿市考古博物館

（１）　視察の目的

伊勢国分寺跡は昭和 63 年から史跡の範囲確認調査を開始。平成 11 年には、保存整備に向けた発掘調査に着手し、平成 18 年から整備事業を進め、令和２年３月に歴史公園が完成した。国史跡に指定された古代寺院の保存方法や活用等について視察した。

（２）　調査事項・概要

①規定整備（条例等）

史跡伊勢国分寺跡歴史公園は、整備事業が令和元年に終了した後、令和２年４月に開園した。一定のルールにのっとり歴史公園として市民等に利用されている。

〇史跡であることから、文化財保護法の規制を受けている。

・文化財保護法第 125 条（現状変更等の制限及び原状回復の命令）

・同　　第 196 条（罰則規定）

〇公園として利活用するために必要なルールを設ける必要がある・

・都市公園の分類の中で「歴史公園」に位置付けが可能。

・都市公園法第２条第１項（都市公園の定義）に合致。

〇鈴鹿市都市公園条例では、公園管理について必要な事項が定められている。

㋐公園施設での行為の制限（使用許可等）

㋑行為の禁止事項

㋒利用の禁止

㋓使用料及び減免規程

㋔指定管理者による管理

以上のことから、文化財保護法の規制を受けながら、都市公園法第２条の２の規程により都市公園として公告し鈴鹿市都市公園条例の規程に基づき歴史公園として運営している。なお、歴史公園の運営管理については、史跡伊勢国分寺のガイダンス機能を有した鈴鹿市考古博物館が行っている。

広大な平地にある伊勢国分寺跡歴史公園

考古博物館の展望デッキ

②歴史公園の利活用について

考古博物館施設を含んだ歴史公園が果たす役割としては、小中学校及び公民館等の学校教育・生涯学習機関と連携し、歴史学習の一助となすこと、並びに考古学ファンを始め広く市民が求める知的好好奇心や探究心を満たしつつ、広く交流の出来る場としての活動が期待されている。さらには、史跡伊勢国分寺跡は、歴史的価値や周辺の街の地域づくり団体との交流を活かした地域住民参画の様々な事業を展開し、国分町や河曲地区の地域づくりにつなげて行く必要がある。また、公園施設を日々利用する地域住民の福祉向上の為には、公園の適正な管理が望まれる。このようなことから３つの目標に沿って歴史公園の利活用をすすめている。

Ⅰ．歴史との出合いづくり

子ども達や多くの考古学ファンの多様なニーズに応えるため、さまざまな歴史や国分寺の学習プログラムや講演会などを企画している。各種体験講座を充実し、歴史に触れるきっかけづくりを図っている。また、ＳＮＳなどのコンテンツを使った情報発信や、デジタルアーカイブにも力を入れ、考古の魅力を広く伝え、歴史との出合いに繋げていく。

Ⅱ．歴史と文化のまちづくり

地区の様々なボランティアと連携し、住民参加のワークショップ等を通じ、歴史公園を生かした事業展開をすることや、住民の交流する場としてまちづくりを進める。

Ⅲ．歴史と関わる人づくり

考古博物館や史跡伊勢国分寺跡歴史公園は、歴史学習の拠点のみならず、市外・県外からの旅行者が訪れる観光資源としても期待されている。そのようなことから、ボランティアガイドの養成や旅行者とつながる仕組みづくりを進める。

②考古博物館及び歴史公園の主な事業と協力団体

〇博物館事業（企画展、講演会、考古ラボ、勾玉作り体験、夏休み子ども体験講座など）
〇学校・公民館連携（歴史講座、勾玉作り、歴史公園の見学と解説）
〇伊勢国分寺まつり・天平の衣装行列（史跡指定 100 周年記念・市制施行 80 周年記念）
〇ボランティアガイド養成講座（考古博物館サポート会と連携）
〇協力団体（考古博物館サポート会、国分町自治会、国分町ボランティア隊、
河曲地区地域づくり協議会、伊勢国分寺まつり実行委員会）

（３） まとめ

講師の吉田学芸員からは恵那市の正家廃寺跡について、遺構が多く残る貴重な遺跡であり羨ましく思うとのお話をいただいた。視察当日には年配者による草刈り作業が行われており、多くの協力団体に支えられ公園の管理運営がされていることが分かった。当市の正家廃寺跡整備については、令和４年３月策定の「正家廃寺跡保存活用計画」のもと、どのように保存し活用していくか、伊勢国分寺跡歴史公園の視察を大いに役立てたい。

考古博物館の前にて